

2010年度 日本アーカイブズ学会 総会資料

【 総会次第 】

- 1 開 会
- 2 会長挨拶
- 3 議長選出
- 4 議 事
 - (1) 2009年度活動報告 (資料1)
 - (2) 2009年度決算報告 (資料2)
 - (3) 2009年度会計監査報告 (資料3)
 - (4) 2010年度活動計画 (資料4)
 - (5) 2010年度予算 (資料5)
 - (6) 役員改選 (資料6)
 - (7) その他
- 5 閉 会

<参考資料>

- ・ 会 則
- ・ 総会運営規程
- ・ 役員選出規程

2010年4月24日

日本アーカイブズ学会

The Japan Society for Archival Science: JSAS

資料1

2009年度活動報告(案)

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催・準備

(1) 大会の開催

2009年4月25日、4月26日の2日間、学習院大学を会場として開催され、受付人数で合計191名が参加した。

1. 総会

- ・定足数確認時点で50名の正会員がおり、成立した（正会員数416名、定足数42名）。
- ・2008年度活動報告・決算報告・会計監査報告、ならびに2009年度活動計画・予算が採決（拍手）により承認された。
- ・「その他」の質疑では、役員交代を円滑に進め、安定的に発展させることができるような体制作りをする必要があること、またWebサイトを活用して情報発信を一層充実すべきことが話し合われた。

2. 講演会

菊池光興（国立公文書館、学習院大学客員教授）

「国民にひらかれた国立公文書館の構築—改革の軌跡と今後の展望—」

3. 自由論題研究発表会

【会場1：北1号館401教室】

- ・小林秀彦「ISO TC46/SC11 Archives/Records Management における記録管理標準の進行、特徴及び課題—マネジメントシステムとの連携、メタデータ活用が課題—」
- ・當山日出夫「アーカイブズにおける文字と文字コード」
- ・宇野淳子・田中秀典「音声の文字資料化における方法論とその問題点」
- ・大蔵綾子「わが国の立法府におけるアーカイブズの現状と課題」

【会場2：北1号館201教室】

- ・青木祐一「近世都市における文書管理と文書認識」
- ・富善一敏「日本近世文書主義社会の存立基盤について—近世天草の筆者（ふでしゃ）についての—考察—」
- ・山本圭「現代民主主義理論とアーカイブズ—その接点をめぐる問い」
- ・池永禎子「ミュージアム・アーカイブズの確立を目指して—日本にあるべきミュージアム・アーカイブズ像の提案」

4. 企画研究会

テーマ「Archives Japan 50—アーカイブズ学からの照射」

- ・太田富康（研究小委員、埼玉県立文書館）「文書館とアーカイブズの半世紀」
- ・山崎一郎（山口県文書館）「山口県文書館と50年」
- ・清水善仁（京都大学大学文書館）「アーカイブズ編成・記述・検索論の50年」
- ・児玉優子（放送番組センター）「アーカイブズと動的映像アーカイブ—近くて遠い隣人?—」
- ・全体討論

(2) 委員会の開催

2009年 4月15日（水） 学習院大学

2009年 5月19日（火） 学習院大学

2009年 6月17日(水) 学習院大学
2009年 7月21日(火) 学習院大学
2009年 9月 2日(水) 学習院大学
2009年 9月28日(月) 学習院大学
2009年10月26日(月) 学習院大学
2009年11月25日(水) 学習院大学
2009年12月14日(月) 学習院大学
2010年 1月15日(金) 学習院大学
2010年 2月16日(火) 学習院大学
2010年 3月15日(月) 学習院大学
2010年 4月14日(水) 学習院大学

(3) 研究集会の企画・開催

1. 研究集会「公文書管理法と専門職問題」

2009年10月3日(土) 午後1時30分～5時に学習院大学北1号館201教室で開催され、参加者数は94名であった。

【プログラム】

- ・岡本信一(内閣官房公文書管理検討室)

「公文書管理『新時代』における専門的人材の育成に向けて—米国情報大学院(i School)が新しい時代を切り拓く—」

- ・安藤福平(広島県立文書館)

「アーカイブズ業務と専門職—広島県立文書館20年の体験から—」

- ・針谷武志(別府大学文学部)

「公文書管理法の成立と文書館専門職養成の役割」

本研究集会は、6月に「公文書等の管理に関する法律」が成立したことをふまえ、アーカイブズ制度充実のための具体的課題のひとつである専門的人材の養成の問題について議論することを目的として開催された。まず岡本氏が、公文書管理法について、その概要と今後同法によって関係各機関がどのように動くことになるのかという点を説明し、併せてアメリカの政府情報の公開状況や情報大学院の動向について報告した。次いで安藤氏は、広島県立文書館のこれまでの活動について、職員がどのように専門性の修得に努めてきたかを整理し、公文書管理法が具体的な現場業務にどのような影響を与えると考えられるかを分析した。針谷氏は、アーキビスト養成に携わる立場から、公文書管理法成立により求められる専門性を分析し、現実に現場から養成課程に求められる専門性との比較を行なった。質疑応答では、専門職という概念の学問的定義の確認が提起されたが、それに対してはすでにアーキビストの専門職についての議論は蓄積されており、今回の報告はそれらをふまえた次の段階の議論であるとの理解が示された。また、岡本氏による情報学大学院の取り組みについての補足説明もなされた。安藤氏・針谷氏の報告ではともにアーカイブズの現場で依然として古文書読解能力が求められることが指摘され、岡本氏も現場ニーズに応じてアーキビストの専門性も多様でありうることを指摘した。公文書管理法が今後のアーカイブズに求められる専門職像を提示したことは間違いないが、それが単一の専門職像でないことが三者の経験から期せずして指摘されたことは興味深い。このほか、予定された時間いっぱい質疑応答がなされ、活発な議論が交わされた。

2. 研究集会「帝国の拡大とアーカイブズ」

日本アーカイブズ学会と科学研究費補助金基盤研究(A)「旧日本植民地・占領地関係資料ならびに原爆関係資料のアーカイブズ学的研究」(研究代表者:安藤正人)との共催で、2009年12月20日(日)10時~17時に立教大学太刀川記念館で開催された。参加者は62名であった。

【プログラム】

午前の部

- ・加藤聖文(国文学研究資料館)
「問題提起:帝国の支配構造とアーカイブズ制度—連関性と補完性の視座—」
- ・鈴江英一(元国文学研究資料館)
「辺境に蓄積するアーカイブズ—内国植民地北海道の文書における国家と地方—」
- ・高江洲昌哉(神奈川大学)
「対馬島庁設置の史料学的接近」

午後の部

- ・東山京子(学習院大学大学院)
「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究—皇太子訪台関係文書を中心に—」
- ・チェ・ウォンギョ(崔元奎)(釜山大学校)
「朝鮮総督府が作成した土地関係帳簿の種類と性格」
- ・キム・ギョンナム(金慶南)(学習院大学)
「旧帝国と旧植民地記録の再認識」

本研究集会は、2008年11月30日に開催された国際シンポジウム「帝国支配とアーカイブズ」(国文学研究資料館主催、日本アーカイブズ学会後援)の続編として企画された。最初に加藤聖文氏が問題提起として述べたように、明治維新以降、日本は中央集権国家の確立をめざして急速に近代化を進め、文書主義に基づく官僚制を整備する過程で、独自の文書管理制度を特徴とする、いわば「日本型のアーカイブズ」システムを形成した。そして、北海道などの内国植民地化から、やがて海外植民地へと支配領域を拡大し、帝国化していくにつれて、「日本型のアーカイブズ」システムも拡大していったと見られる。本研究集会では、このような観点から、まず鈴江英一氏に「辺境に蓄積するアーカイブズ」と題して内国植民地北海道に国家の文書システムが浸透していく過程を、高江洲昌哉に「対馬島庁設置の史料学的接近」と題して、同じく対馬における文書システムの展開の問題を具体的に検討していただいた。次に東山京子氏の報告から海外植民地の問題に移った。東山氏は「台湾総督府文書のアーカイブズ学的研究」と題し、皇太子の訪台(台湾行啓)を分析素材として、この一大プロジェクトが台湾総督府の文書システムの構築や、記念碑建立を含む記録作成に及ぼした大きな影響を論じた。またチェ・ウォンギョ(崔元奎)氏は、「朝鮮総督府が作成した土地関係帳簿の種類と性格」という題で報告し、馬山などの豊富な事例を具体的に示しながら、朝鮮総督府の下で進められた土地制度の改変と帳簿体系の変化、ならびにそのことが日本の植民地支配において持つ意味を論じた。最後に、キム・ギョンナム(金慶南)氏は「旧帝国と旧植民地記録の再認識」と題する総括的な報告を行い、旧植民地記録の問題は、空間的には日本国内の帝国記録と旧植民地記録の双方を総合的に把握する必要があること、また時間的にも1945年の日本敗戦時で切るのでなく、戦後の問題も合わせて考えていかなければならないことを述べた。その後に行われた総括討論では、それぞれの報告に対する個別の質疑のほか、「日本型のアーカイブズ」という考え方についての討論や、旧植民地記録の研究におけるいわゆる「私文書」の重要性についての議論などが活発に行われた。今後のアーカイブズ学的な調査・研究活動について、参加者から具体的な提言まではなかったが、6本の報告とフロアからの多彩な発言を通じて、旧植

民地記録の調査や研究が今後どのような方向で進められるべきか、多くの示唆を得ることのできた極めて有意義な研究集会であった。

(4) 2010年度大会の準備

日本アーカイブズ学会2010年度大会を2010年4月24日(土)、25日(日)の2日間、学習院大学で開催することとし、以下のような内容で大会講演会、自由論題研究発表会、企画研究会の準備を進めた。

4月24日(土) 【会場：南3号館201教室】

<総会>

<講演会>

上川陽子(初代公文書管理担当大臣)

「時を貫く記録としての公文書管理の在り方～今、国家事業として取り組む」

4月25日(日)

<自由論題研究発表会>

【会場1：北1号館401教室】

- ・清水恵枝「地方自治体のアーカイブズ意識とアーカイブズ機能の構築」
- ・毛塚万里「アーカイブズ学の用語をめぐる一考察—教材研究の一助として—」
- ・山口拓史「公文書管理法におけるライフサイクル管理論の整理」
- ・古賀 崇「米国連邦政府における電子的政府情報の管理・保存・公開をめぐる現状と課題：制度・政策的側面を中心に」
- ・研谷紀夫「EAC-CPFとMADSに適応する人名典拠情報構築の試み—戦前期の皇族・華族に関する人名情報を中心として—」

【会場2：北1号館201教室】

- ・丑木幸男「郡役所文書情報の集約とその特質」
- ・矢野 篤「廣池千九郎関係資料のアーカイブズ管理史」
- ・渡邊美喜「ミュージアム・アーカイブズの有用性 ある展覧会での事例とともに」
- ・岡野裕行「点在する文学資料とそのアーカイブズ環境の検討：文学館の所蔵資料情報の顕在化に関する予備考察」
- ・平野 泉「事例報告：死刑囚・永山則夫のアーカイブズ—編成・記述を中心に—」
- ・大石三紗子「国民体育大会開催にかかわる行政文書—埼玉県と神奈川県と比較を中心に—」

<企画研究会>

【会場：北1号館201教室】

テーマ「公文書管理法がもたらすアーカイブズ学の課題

～“レコードスケジュール”を中心に～」

- ・石原一則(神奈川県立公文書館資料課長)「記録の評価選別とレコードスケジュール」
- ・任眞嬉(イム・ジニ)(韓国国家記録研究院学術研究処長)「レコードスケジュールとしての韓国の政府機能分類(BRM)と記録管理基準表の役割と展望」

2. 機関誌の発行

(1) 『アーカイブズ学研究』第11号(A4版、142頁) 発行日：2009年11月10日

【主な内容】

講演：菊池光興「国民にひらかれた国立公文書館の構築—改革の軌跡と今後の展望」

企画研究会：Archives Japan 50 —アーカイブズ学からの照射—

太田富康「アーカイブズ理解の50年／公文書管理法への50年」
山崎一郎「山口県文書館と50年」
清水善仁「アーカイブズ編成・記述・検索システム論の成果と課題」
児玉優子「アーカイブズと動的映像アーカイブー近くて遠い隣人？」

論文

明星聖子「文学研究資料の未来をめぐる一考察
ー編集文献学とアーカイブズ学の狭間でー」

(2) 『アーカイブズ学研究』第12号

【主な内容】

特集1 2008年度第2回研究集会

＜研究記録のアーカイブズー研究過程の検証と新たな情報資源化のためにー＞

佐藤博樹「SSJ データアーカイブの現状と課題：社会調査・データアーカイブ
研究センターの活動」

高岩義信「自然科学の研究アーカイブズー研究記録と説明責任」

大石三紗子「研究集会参加記」

特集2 2009年度第1回研究集会

＜公文書管理法と専門職問題＞

岡本信一「公文書管理『新時代』における専門的人材の育成に向けて

～米国情報大学院 (i School) が新しい時代を切り拓く～

安藤福平「アーカイブズ業務と専門職ー広島県立文書館20年の体験からー」

針谷武志「公文書管理法の成立と文書館専門職養成の役割」

宇野淳子「研究集会参加記」

3. Webサイトの維持管理

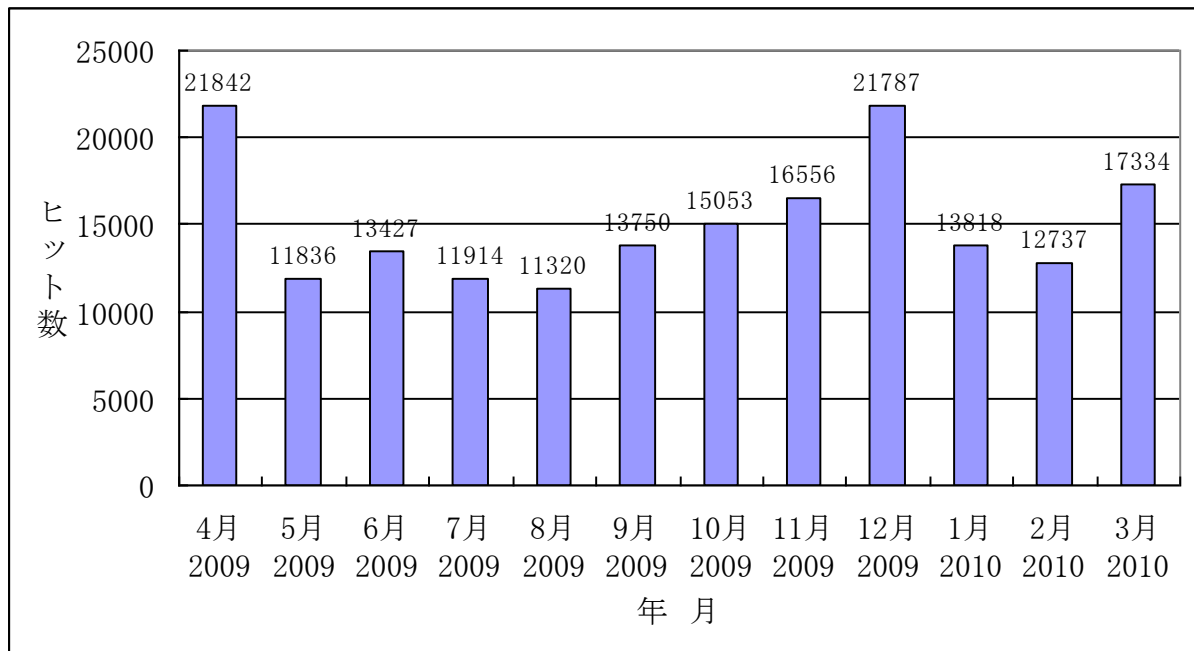
(1) Webサイトの更新

2009年4月7日	過去の大会に関する情報
2009年4月13日	過去の研究集会に関する情報
2009年6月23日	『アーカイブズ学研究』第10号の目次・要旨
2009年9月3日	研究集会「公文書管理法と専門職問題」の案内
2009年10月5日	後援行事の案内
2009年11月11日	「English」ページ
2009年11月16日	後援行事の案内
2009年11月16日	研究集会「帝国の拡大とアーカイブズ」の案内
2009年11月16日	2010年度大会の案内及び自由論題研究発表会の研究発表募集
2009年12月5日	トップページの一部修正（「最新ニュース」の表示件数増加など）
2009年12月6日	『アーカイブズ学研究』第11号の目次・要旨
2009年12月18日	国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部（EASTICA）への加盟
2009年12月18日	後援行事の案内
2009年12月20日	全日本博物館学会からの声明について
2010年3月8日	後援行事の案内
2010年3月24日	2010年度大会の案内

(2) Web サイトのアクセス履歴

年間 181,374 (2009年4月1日～2010年3月31日)

一日平均約497ヒット



月別のヒット数 (2009年4月～2010年3月)

4. アーキビスト養成制度確立のためのワーキンググループ

日本アーカイブズ学会が主体となるアーキビスト認定制度を立ち上げるための検討を進めた。アーキビスト認定を受けようとする者から申請を受けたアーカイブズ学会は、アーキビスト認定委員会に審査を依頼し、申請者の資格審査を行い、これに基づきアーカイブズ学会がアーキビスト認定証を授与するという、大まかな構想を検討してきた。また、関係機関との連携についても、その可能性を検討した。

5. アーカイブズ学海外文献翻訳集の出版

アーカイブズ学海外文献の翻訳集の出版について検討を進めた。

6. 事務業務

(1) 事務内容

- ア. 会員関係事務 (入会受付、会員名簿管理、会員への連絡など)
- イ. 会計事務 (会費徴収、活動経費の支払いなど)
- ウ. 総会・大会・委員会準備、実施、議事録作成
- エ. 記録・アーカイブズの管理
- オ. 広報および普及活動
- カ. 他団体との交流関係事務
- キ. その他

(2) 「日本アーカイブズ学会からのお知らせ」電子メール（旧メール便）の配信

内 容：会告、主催・後援等の行事情報、関係諸団体・会員提供の各種情報、事務連絡等

発行日： 2009年 9月 1日

2009年10月 2日

2009年11月19日

2009年12月10日

2009年12月20日

2010年 1月 9日

2010年 3月22日

2010年 3月24日

なお、電子メールを使用しない会員に対しては、同じ情報を郵送した。

7. 学会普及活動(紹介新聞記事等を含む)

(1) 2009年7月15～17日、有明・東京国際展示場にて開催された「Next Document ソリューション2009」に展示ブースを出展し、また同15日に催された特設セミナーでは安藤正人本会委員が「日本のアーカイブズ学研究と日本アーカイブズ学会」という題名で講演した。これにより、多くの来場者にアーカイブズ学研究の重要性を訴え、本会の活動を紹介・普及する機会とした。

(2) 2009年7月、文部科学省「共同利用・共同研究拠点」認定事業に関してアーカイブズに関連する実績等を持つ機関として推薦していた東京大学史料編纂所と東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターが、「共同利用・共同研究拠点」に認定された。これにより前者は文部科学省が認定する「日本史資料の研究資源化に関する研究拠点」に、後者は同様に「社会調査・データアーカイブ共同利用・共同研究拠点」となった。

(3) 新聞における紹介記事等

① 「<文化往来>アーカイブズ学会、公文書管理法案を注視」、『日本経済新聞』朝刊、2009年5月14日(木)

② 「<芸文余話>公文書館長の選択と集中」、『日本経済新聞』夕刊、2009年5月23日(土)

8. 交流活動など

(1) 交流・対外活動など

ア. 国際アーカイブズ評議会東アジア地域支部 (East Asian Regional Branch of the International Council on Archives, EASTICA) への加盟

EASTICA にカテゴリーB 会員 (全国的なアーカイブズ専門団体) として加盟申請を行い、2009年9月の EASTICA 第9回総会 (中国・青島) において、正式に加盟が承認された。

イ. ICA 会長・副会長選挙における投票

2010年9月の年次総会 (於オスロ) から新理事会体制となるにあたり、国際アーカイブズ評議会 (International Council on Archives, ICA) の会長および副会長 (マーケティング、プロモーション担当) の選挙が4月11日を締め切りとして行われた。委員会で検討の

上、会長は Martin J. Berendse 氏(オランダ国立文書館長)、副会長は VU THI MINH Huong 氏(ベトナム国立文書館長)に投票した。開票の結果、会長には Martin J. Berendse 氏、副会長には VU THI MINH Huong 氏が選出された。

ウ. アーカイブズ関係機関協議会への参加

2009年8月26日開催、第5回アーカイブズ関係機関協議会に参加し、「公文書等の管理に関する法律」公布後の対応や、専門職養成の体制づくりに関して協議した。

エ. 「高山正也先生の国立公文書館長ご就任を祝う会」企画・実施

アート・ドキュメンテーション学会、記録管理学会、図書館サポートフォーラムとともに、本会会員でもある高山正也氏が国立公文書館長に就任したことを祝い、応援するため「高山正也先生の国立公文書館長ご就任を祝う会」を企画・実施。2009年9月25日(金)、如水会館スターホール、参加136名。

(2) 関係学会活動等の後援など

ア. 日本歴史学協会史料保存利用特別委員会、同文化財保護特別委員会及び日本学術会議史学委員会主催シンポジウム「文化財と史料保存問題を考える」後援、2009年6月27日(土)、学習院大学南3号館201教室

イ. 情報保存研究会、社団法人日本図書館協会主催シンポジウム「資料保存を実践する一事例から学ぶ現場の知恵」後援、2009年10月16日(金)、江戸東京博物館1階ホール

ウ. 学習院大学大学院アーカイブズ学専攻主催講演会、エリック・ケテラル「記録のパフォーマティブ・パワー」後援、2009年10月24日(土)、学習院大学南3号館201教室

エ. アート・ドキュメンテーション学会主催、アート・ドキュメンテーション学会創立20周年記念第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「日本のアート・ドキュメンテーション—20年の達成、MLA 連携の現状、課題、そして将来 M(useum), L(ibrary), A(rchives)」後援、2009年12月4日(金)・5日(土)、東京国立博物館平成館大・小講堂

オ. 情報処理学会<人文科学とコンピュータ>主催シンポジウム「デジタル・ヒューマニティーズの可能性」後援、2009年12月18日(金)・19日(土)、立命館大学びわこ・くさつキャンパス「エポック立命21」

カ. 国文学研究資料館主催公開研究集会「アーカイブズ編成の理論と実践—公文書館の現場からの提言—」後援、2010年1月9日(土)、人間文化研究機構国文学研究資料館2階第1会議室

キ. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会主催「公文書管理法制定にともなうセミナー」後援、2010年2月5日(金)、埼玉会館7B会議室

ク. 学習院大学東洋文化研究所<戦時期日本のアジア研究とアーカイブズ>プロジェクト講演会 フィリップ・ル・ファイエ「植民地期ヴェトナムの歴史アーカイブズ—資料の諸類型と社会科学における活用—」後援、2010年3月13日(土)、学習院大学西2号館503教室

ケ. アート・ドキュメンテーション学会2010年度大会「アート・アーカイブ—多面体：その現状と未来」シンポジウム・研究発表会の後援、2010年6月12日(土)・13日(日)、慶應義塾大学三田キャンパス西校舎

コ. 日本学術会議史学委員会、日本歴史学協会史料保存利用問題特別委員会・国立公文書館特別委員会主催「公文書管理法の施行と史料保存利用問題のこれから」後援、2010年6月26日(土)、学習院大学南3号館201教室

(3) 意見書等の提出

全日本博物館学会より同会の「地方分権改革推進委員会第3次勧告における博物館法の見直しに対する反対声明」に賛同するよう要請があり、2009年12月20日(日)、これに賛同

し、会員それぞれの立場からこれに尽力を願うものであることを本会 Web サイトで公表した。

9. 役員・事務局員と業務分担（2010年3月31日現在）

2008年度総会において選出された25名の役員、事務局補佐2名、サポーター2名により本会の活動を計画・実施した。役員（ただし監事を除く）は、次の①～⑦までの2小委員会、5担当に分かれて業務にあたった。以下の役員・事務局員の一覧では担当した業務をその番号で示した。

- ① 研究小委員会
- ② 編集小委員会
- ③ 法制・組織担当
- ④ Web 担当
- ⑤ 国際交流担当
- ⑥ 専門職担当
- ⑦ 事務局担当

会 長	高埜利彦（学習院大学文学部）	⑥
副会長	青山英幸（アーカイブズ・レコード・マネージメントあおやま研究室）	⑤
	高橋実（人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系）	③
委 員	安藤正人（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）	①
	石原一則（神奈川県立公文書館）	②
	太田富康（埼玉県立文書館）	①③
	大友一雄（人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系）	①④
	加藤聖文（人間文化研究機構国文学研究資料館）	②
	毛塚万里（アーキビスト・サポート）	⑦
	古賀崇（京都大学附属図書館研究開発室）	①⑤
	近藤靖之（株式会社 DNP 年史センター）	④⑦
	坂口貴弘（人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系）	④⑦
	佐藤勝巳（戸田市立図書館・郷土博物館）	⑦
	清水邦俊（土佐山内家宝物資料館）	②
	白井哲哉（筑波大学大学院図書館情報メディア研究科）	②③
	高木秀彰（寒川文書館）	②
	富善一敏（東京大学経済学部資料室）	②
	保坂裕興（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）	⑦
	松崎裕子（渋沢栄一記念財団実業史研究情報センター）	①
	森本祥子（学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻）	①
	八重樫純樹（静岡大学情報学部）	①
	山崎圭（中央大学文学部）	①⑥
	横山伊徳（東京大学史料編纂所）	⑤
監 事	高野修	
	水野保（中央大学文学部）	

事務局補佐 倉田綾子（電気の文書館） ⑦
大石三紗子（埼玉県立文書館） ⑦
サポーター 清水善仁（京都大学大学文書館）
富田健司（栃木県芳賀町総合情報館）

10. 会員数（2010年3月31日現在）

正会員420名（うち学生55名）

賛助会員17団体

資料2

2009年度 決算書(案)

歳入

単位:円

項目	予算額	収入済額	比較増減	備考
繰越金	2,459,517	2,459,517	0	前年度からの繰越金
会費	1,800,000	1,811,000	11,000	個人 1,681,000 賛助 130,000
参加費	186,000	209,000	23,000	大会 209,000 研究集会 0
寄付金	1,000	0	△1,000	
売上金	100,000	220,000	120,000	会誌
雑入	100,000	122,374	21,686	広告料、利息等
合計	4,646,517	4,821,891	174,686	

歳出

単位:円

項目	予算額	支出済額	不用額	備考
総会・研究集会費	300,000	406,072	△ 106,072	講師・アルバイト謝礼等
事務費	450,000	394,492	55,508	コピー、文具、郵送料等
印刷製本費	1,400,000	883,140	516,860	会誌 10号・11号
賃金	500,000	443,262	56,738	
委託料	200,000	195,810	4,190	HP 管理料等
負担金	100,000	34,326	65,674	ICA 会費等
学会推進基金	1,000,000	1,000,000	0	基盤強化のための積立て
予備費	696,517	0	696,517	
合計	4,646,517	3,357,102	1,289,415	

(歳入－歳出) 4,821,891円－3,357,102円＝1,464,789円 ⇒ 次年度繰越

学会推進基金	2,000,000円	(別立て定期積金)
--------	------------	-----------

上記の通り報告します。

2010年4月14日

日本アーカイブズ学会



会長 高埜 利彦

資料3

監 査 報 告 書

日本アーカイブズ学会会則第10条第4項の規定に基づき、会計帳簿など
会計書類を審査した結果、2009年度の会計は適正に執行されていること
を認めます。

2010年4月14日

監 事 高野 修 
監 事 小野 栄 

資料4

2010年度活動計画(案)

1. 大会、委員会、および研究集会等の開催・準備

- (1) 2010年度大会の開催と2011年度大会の準備
2010年度大会を2010年4月24日(土)・25日(日)に開催する。
2011年度大会を準備する(2011年春季開催)。
- (2) 委員会の開催
月に一回程度のペースで委員会を開催する。
- (3) 研究集会の企画・開催
2ないし3回の研究集会を行う。また2011年度大会における研究集会を企画・準備する。これらの研究集会は、研究報告、シンポジウム、および見学・研修、等々を行うものであり、本会研究活動の中心的な場とする。企画にあたっては次の諸点に留意するものとする。
 - ア. 会員が相互に課題を出し合い、学会活動の方向を模索・形成していくこと。
 - イ. 正会員と賛助会員の積極的な意見交換を通して、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。
 - ウ. 大学等教育研究機関とも連携し、アーカイブズ学の教育・普及、およびアーキビスト養成を進展・充実させること。
 - エ. 隣接分野・新興分野、あるいは関連諸機関・団体と交流し、共通の課題を発見し、それに取り組むこと。
 - オ. 海外の研究者・関連団体と交流し、研究動向を把握しながら、国際的視野のもとに研究活動を企画・推進すること。

2. 機関誌

- (1) 機関誌『アーカイブズ学研究』の発行
第13号を2010年11月、第14号を2011年3月に発行する。
- (2) 編集企画、投稿論文の審査事務、編集事務
機関誌の内容について、大会を含めた研究集会の成果をできるだけ反映させると共に、アーカイブズ学研究の発展のため、良質の論文掲載に向けて努力する。

3. Webサイトの維持管理

- (1) Webサイトの更新
大会、研究集会、後援行事等の開催案内や機関誌の発行など、学会の活動とその成果に関する情報を速やかに発信していく。
- (2) Webサイトの改善
さらに分かりやすく利用しやすいWebサイトを目指して、トップページのリニューアルやサイト構造の見直しに取りかかる。
- (3) Webサーバーの維持管理
Webサイトによる情報提供が安全かつ確実にできるよう、セキュリティ対策やコンテンツのバックアップを実施する。

4. 規程類の整備

会運営の効率化、事務遂行の安定化に向けて規程類の整備を順次進める。

5. アーキビスト認定制度確立のための活動

日本アーカイブズ学会が主体となるアーキビスト認定制度を設立するために、日本アーカイブズ学会会長の諮問機関として「アーキビスト認定制度設立検討委員会」を設置し、認定のシステムや関連法規、さらにはアーキビスト認定申請者の資格要件などを検討する。

6. 交流活動など

- (1) ICA設立60周年を記念して設けられた「国際アーカイブズの日」に関わる普及活動等に参加・協力する。
- (2) アーカイブズ関係機関協議会に参加し、情報交換および相互協力を進める。
- (3) 地方公共団体公文書管理条例研究会に委員を派遣し、条例ガイドライン等の作成に参加・協力する。

7. 事務業務

- (1) 事務体制の整備
- (2) 会員への案内体制の整備
- (3) 広報活動
- (4) 他団体との交流関係事務

資料5

2010年度 予算書(案)

歳入

単位;円

項目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
繰越金	2,459,517	1,464,789	△ 994,728	前年度からの繰越金額
会費	1,800,000	1,800,000	0	個人 1,630,000 賛助 170,000
参加費	186,000	200,000	14,000	大会 150,000 研究集会 50,000
寄付金	1,000	1,000	0	
売上金	100,000	200,000	100,000	会誌
雑入	100,000	100,000	0	広告料、利息等
合計	4,646,517	3,765,789	△ 880,728	

歳出

単位;円

項目	前年度予算額	本年度予算額	比較増減	備考
総会・研究集会費	300,000	400,000	100,000	講師・アルバイト謝礼等
事務費	450,000	400,000	△50,000	コピー、文具、郵送料等
印刷製本費	1,400,000	1,000,000	△400,000	会誌等
賃金	500,000	500,000	0	事務局アルバイト
委託料	200,000	200,000	0	HP 管理料等
負担金	100,000	60,000	△40,000	ICA 会費等
学会推進基金	1,000,000	1,000,000	0	基盤強化のための積立て
予備費	696,517	205,789	△ 490,728	
合計	4,646,517	3,765,789	△ 880,728	

資料6

役員改選 2010～2011年度役員(案)

会長（定員1名）	高橋 実		
副会長（定員2名）	安藤 正人	石原 一則	
委員（定員20名以内）	青木 直己	青木 祐一	加藤 聖文*
	神立 孝一	倉田 綾子	古賀 崇*
	近藤 靖之*	坂口 貴弘*	白井 哲哉*
	高木 秀彰*	研谷 紀夫	中谷 正克
	平野 泉	水野 保	山崎 圭*
	渡辺 浩一	渡辺 佳子	
監事（定員2名）	水口 政次	佐藤 勝巳	

(以上敬称略、*は再任)

(参考)

以下は、2010年3月22日付会告によるものである。

1. 会長候補者（定員1名）

氏名 : 高橋 実

居住地 : 東京都

略歴 : 茨城県立歴史館研究員(1970～97年)、作新学院大学経営学部(1997～2003年)、
国文学研究資料館アーカイブズ研究系(2003年～現在)

立候補の理由: 本学会の発展のために、微力を尽したいと考えたからである。

推薦者名: 太田 富康・石原 一則・佐藤 勝巳

2. 副会長候補者（定員2名）

(1) 氏名 : 安藤 正人

居住地 : 神奈川県

略歴 : 1977年 国文学研究資料館・史料館助手、1990年 国文学研究資料館・史料館
助教授、1998年 国文学研究資料館・史料館教授、2004年 人間文化研究機構国
文学研究資料館アーカイブズ研究系教授、2008年 学習院大学大学院人文科学研究
科アーカイブズ学専攻教授

立候補の理由: 日本アーカイブズ学会が、日本ならびに世界のアーカイブズ学発展に
果たすべき役割には非常に大きいものがあると考えており、その仕事の輪の中に加
わりたい。

推薦者名: 高埜 利彦・保坂 裕興・大石 三紗子

- (2) 氏名 : 石原 一則
居住地 : 神奈川県
略歴 : 昭和 52 年 神奈川県立図書館、昭和 56 年 神奈川県立文化資料館、平成 5 年 神奈川県立公文書館、現在に至る
立候補の理由: 学会役員として日本のアーカイブズ学の裾野の拡大に貢献したい。
推薦者名: 安藤 正人・大友 一雄・佐藤 勝巳

3. 委員候補者 (定員 20 名以内。以下は候補者氏名の五十音順とした。)

- (1) 氏名 : 青木 直己
居住地 : 東京都
略歴 : 1954 年生まれ。1982 年 立正大学大学院史学専攻博士後期課程研究指導修了、1982 年 東京都国分寺市市史編纂室勤務 (非常勤)、1985 年 立正大学文学部助手 (専任)、1989 年 株式会社虎屋入社、現在虎屋文庫研究主幹・担当部長。企業アーカイブズの収集・管理、前近代史料の管理、社史編纂、展示業務、和菓子文化に関する調査研究などに従事
立候補の理由: 企業アーカイブズに関する研究は、十分とはいえない状況である。現実に業務に携わる者として、企業アーカイブズ研究の進展と理解に多少なりとも寄与したい。
推薦者名: 安藤 正人・佐藤 勝巳・大友 一雄

- (2) 氏名 : 青木 祐一
居住地 : 千葉県
略歴 : 千葉大学文学部史学科・卒業、千葉大学大学院文学研究科史学専攻・修了、千葉大学大学院社会文化科学研究科・単位取得退学、学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻・入学。現在、博士後期課程在学
立候補の理由: 学問領域としてのアーカイブズ学の確立に寄与するため。
推薦者名: 保坂 裕興・山崎 圭・高埜 利彦

- (3) 氏名 : 加藤 聖文
居住地 : 神奈川県
略歴 : 2002 年 4 月 国文学研究資料館史料館助手、2007 年 5 月 国文学研究資料館助教 (現在に至る)
立候補の理由: 自分の専門領域を生かして学会に貢献したいため。
推薦者名: 佐藤 勝巳・保坂 裕興・安藤 正人

- (4) 氏名 : 神立 孝一
居住地 : 東京都
略歴 : 1983 年 創価大学大学院経済学研究科博士後期課程修了、1983 年 創価大学経済学部助手、1991 年 英国マンチェスター大学客員研究員 (1992 年まで)、1997 年 同 教授、2003 年 国立国文学研究資料館史料館客員教授 (2004 年まで)、現在 創価大学経済学部教授
立候補の理由: 日本におけるアーカイブズ研究の発展に、微力ながら少しでも貢献させていただきたく、立候補させていただきました。
推薦者名: 保坂 裕興・森本 祥子・佐藤 勝巳

- (5) 氏名 : 倉田 綾子
 居住地 : 神奈川県
 略歴 : 2004年 神奈川大学大学院歴史民俗資料科学研究科博士前期課程修了、2003年～国立公文書館業務課修復室 非常勤職員、2005年～千葉県文書館県史・古文書課 嘱託職員、2007年～東京レコードマネジメント株式会社 電気の文書館勤務
 立候補の理由: これまでの事務局補佐としての経験を生かし、委員としてより積極的に学会活動に貢献したいと考えたため。
 推薦者名: 安藤 正人・森本 祥子・大友 一雄
- (6) 氏名 : 古賀 崇
 居住地 : 京都府
 略歴 : 1996年3月 東京大学法学部第3類(政治コース)卒業後、東京大学大学院教育学研究科修士・博士課程、米国シラキュース大学情報学大学院修士課程にて学ぶ。修士(教育学)、Master of Library Science 取得。国立情報学研究所助手(2004年3月～2007年3月)、同助教(2007年4月～2008年12月)を経て、2009年1月より京都大学附属図書館研究開発室准教授(現職)。
 現在、日本図書館協会 国際交流事業委員会委員、国際図書館連盟 政府情報・公的刊行物分科会委員を務める。
 立候補の理由: 日本でのアーカイブズ学を、他のさまざまな学問領域・実践領域との「つながり」という点で活性化させたい。また、学会の国際交流活動(対外的発信含め)にも貢献したい。
 推薦者名: 佐藤 勝巳・大友 一雄・森本 祥子
- (7) 氏名 : 近藤 靖之
 居住地 : 千葉県
 略歴 : 1999年3月 駒澤大学文学部歴史学科卒業、2002年3月 駒澤大学大学院人文科学研究科日本史学専攻修了、2003年2月 株式会社DNP年史センター入社
 立候補の理由: 企業アーカイブズの立場から、学会活動に寄与していきたいと考えるため。
 推薦者名: 大石 三紗子・坂口 貴弘・池永 禎子
- (8) 氏名 : 坂口 貴弘
 居住地 : 東京都
 略歴 : 2004年 駿河台大学大学院情報学研究科(修士課程)修了、2007年～2010年 人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系機関研究員、2008年～学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻(博士後期課程)在学
 立候補の理由: アーキビストを志す者の立場から、学会の運営とアーカイブズ学の活性化に積極的に参画していきたいと思っております。
 推薦者名: 大友 一雄・佐藤 勝巳・保坂 裕興
- (9) 氏名 : 白井 哲哉
 居住地 : 埼玉県
 略歴 : 1992年4月～2009年8月 埼玉県教育委員会(教育局、文書館、博物館、文学館で学芸員として勤務)、2009年9月～現在 筑波大学 図書館情報メディア研究

科

立候補の理由：日本におけるアーカイブズ専門職制度の確立に尽力したい。

推薦者名：大友 一雄・森本 祥子・山崎 圭

(10) 氏名 : 高木 秀彰

居住地 : 神奈川県

略歴 : 1986年 学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程修了、1986年 寒川町
町史編さん室、2003年 寒川町企画課、2006年 寒川文書館

立候補の理由：アーカイブズ学の発展に寄与し、人的ネットワークを築くとともに、その成果を自らの仕事にも役立てたい。

推薦者名：大友 一雄・佐藤 勝巳・安藤 正人

(11) 氏名 : 研谷 紀夫

居住地 : 神奈川県

略歴 : 1974年生まれ。1998年 慶應義塾大学文学部卒業後、情報通信関連企業に勤務。
2002年 東京大学大学院学際情報学府修士課程入学、2004年に同修士課程修了。
2007年より東京大学大学院情報学環助教。文化資源の電子化の方法論や知識情報の統制などを主なテーマとして研究する。近著に『デジタルアーカイブにおける「資料基盤」統合化モデルの研究』など。

立候補の理由：アーカイブズが社会において重要な役割を担いつつある現在、これらアーカイブズに関する様々な議論や研究をより深めて行きたいと考え、学会の委員に立候補することといたしました。

推薦者名：安藤 正人・大友 一雄・佐藤 勝巳

(12) 氏名 : 中谷 正克

居住地 : 千葉県

略歴 : 平成10年3月 東洋大学大学院文学研究科日本史学修士課程修了。平成14年5
月より千葉県文書館 県史・古文書課に嘱託職員として勤務

立候補の理由：都道府県アーカイブズに勤務する中で感じる実践的な諸問題について学会の委員という立場から提起を試み、また共に議論してみたいと思ひ立候補いたします。問題関心としては、都道府県アーカイブズにおける民間資料の受入から保存、管理・利用に関わる問題や、閲覧室における利用者問題などがあります。

推薦者名：森本 祥子・安藤 正人・高埜 利彦

(13) 氏名 : 平野 泉

居住地 : 埼玉県

略歴 : 1986年 上智大学外国語学部ドイツ語学科卒業、2002年～埼玉大学共生社会研究センター（2008年9月より共生社会教育研究センターに改称）勤務（非常勤職員）、現在に至る。2010年3月 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻博士前期課程修了見込。

立候補の理由：草の根に眠る「人びとの記録」の今後に強い関心を抱いています。学会の活動がさらに活性化し、その多様な実りを広く社会に向けて発信していくことができるよう、少しでもお役に立てればと思います。

推薦者名：大友 一雄・佐藤 勝巳・山崎 圭

(14) 氏名 : 水野 保
居住地 : 東京都
略歴 : 東京都公文書館を、2007年3月末に定年退職。中央大学で「記録史科学」の講師をつとめる。
立候補の理由: アーカイブズ分野で仕事をする一人として、この分野の発展を心から願うものである。
推薦者名: 大友 一雄・安藤 正人・佐藤 勝巳

(15) 氏名 : 山崎 圭
居住地 : 東京都
略歴 : 名古屋大学文学部卒業、同博士前・後期課程修了、国文学研究資料館史料館助手等を経て、現在、中央大学文学部准教授
立候補の理由: アーカイブズ教育普及のため。
推薦者名: 安藤 正人・大友 一雄・森本 祥子

(16) 氏名 : 渡辺 浩一
居住地 : 東京都
略歴 : 1987年3月 東北大学大学院文学研究科博士後期課程(国史学専攻)中途退学。
1987年4月 東北大学文学部国史研究室助手に着任、1991年4月 国文学研究資料館史料館助手に転任、1998年4月 国文学研究資料館史料館助教授に昇任、2003年4月 総合研究大学院大学文化科学研究科助教授を併任、2008年4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館アーカイブズ研究系教授に昇任、国立大学法人総合研究大学院大学文化科学研究科教授を兼任。現在に至る。
立候補の理由: 日本のアーカイブズ学がどうあるべきかを考えるため。
推薦者名: 池永 禎子・森本 祥子・大友 一雄

(17) 氏名 : 渡辺 佳子
居住地 : 京都府
略歴 : 1990年 京都府立総合資料館歴史資料課で、京都府の公文書館業務に従事。1992年 京都府職員海外派遣研修生として、カナダ、アメリカ、イギリスへ出張、ICA大会参加と公文書館を視察。現在に至る。2003年 日本アーカイブズ学会設立発起人に参加する。
立候補の理由: 公文書管理法の制定等、公文書館制度に係る環境が大きく変化しようとしている時期、この制度を支える学問としてのアーカイブズ学の発展に、微力ながら役立つことができればと思い、立候補しました。
推薦者名: 安藤 正人・森本 祥子・高埜 利彦

4. 監事候補者(定員2名)

(1) 氏名 : 佐藤 勝巳
居住地 : 埼玉県
略歴 : 元全国歴史資料保存利用機関連絡協議会編集出版委員会委員、日本アーカイブズ学会設立準備委員会委員、日本アーカイブズ学会委員(～2009年)、現 戸田市教育委員会図書館・郷土博物館館長

立候補の理由：日本アーカイブズ学会の進展に助力したいため。

推薦者名：安藤 正人・坂口 貴弘・大友 一雄

(2) 氏名 : 水口 政次

居住地 : 神奈川県

略歴 : 元東京都公文書館職員

立候補の理由：微力ながら会の運営のお手伝いをしたいと思います。

推薦者名：大石 三紗子・石原 一則・安藤 正人

参考資料

会 則

目 次

前 文

第1章 総則

第2章 目的および事業

第3章 会員

第4章 役員及び事務局

第5章 会議

第6章 会計

第7章 記録の管理、公開及び保存

第8章 会則の変更及び本会の解散

第9章 関連諸規程

附 則

【前 文】

私たちは、日本のみならず世界に遺されたアーカイブズ、そして将来のアーカイブズとなる記録の生成、保存及び活用についての理論と技法を研究し、実践するため、この学会を創設することとした。

アーカイブズは、団体、家及び個人が作成し、收受し、保存されてきた記録からなり、手書きや印刷された紙媒体のもの、電磁的記録のもの、そしてオーラルヒストリーなどからなっている。

このアーカイブズに関する科学研究は、(1)アーカイブズの管理に関する研究、(2)アーカイブズの成立・構造・伝来などに関する研究、(3)アーカイブズの教育・普及に関する研究などから構成されており、歴史学、社会学、情報学など既存の様々な学問分野の学理と連携しつつ、独自の領域をもつものである。この科学研究は、アーカイブズの保存及び関連する諸課題の解決に資するという役割を担うものでもある。

また、この科学研究と同時に、アーカイブズの保存及び関連する諸課題に対する実践を、このアーカイブズの科学研究に関わるものは求められている。

アーカイブズに関する科学研究と実践を担うものとしてアーカイブズ学を構築し、アーカイブズの適切な生成、保存、活用による平和で豊かな民主社会の実現に資するため、この会則を制定する。

第1章 総 則

(名称)

第1条 本会の名称は、日本アーカイブズ学会（英文名 The Japan Society for Archival Science 略称 JSAS）とする。

第2章 目的及び事業

(目的)

第2条 本会は、アーカイブズに関する調査・研究を行い、わが国におけるアーカイブズ学の進展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

(1) 研究集会及び総会の開催

- (2) 機関誌及びアーカイブズ関係文献の刊行
- (3) Webサイトの運営
- (4) 国内外の関係団体・機関との交流
- (5) その他必要と認める事業

第3章 会員

(会員)

第4条 本会の会員の種類は、正会員及び賛助会員とする。

- 2 正会員は、本会の目的に賛同する個人とする。
- 3 賛助会員は、本会の目的に賛同し、その事業を援助する団体とする。

(入退会)

第5条 本会に入会しようとするものは、入会申込書に所定事項を記入して申し込み、会費を納めなければならない。

- 2 本会の退会は、退会の申し出による。ただし、正当な理由なしに会費を3年以上滞納した場合は退会したものとみなす。
- 3 本会の目的に反する行為のあった会員、または本会の名誉を著しく傷つけた会員に対しては、総会の議決によって会長は、退会を勧告することができる。

(会費)

第6条 会員は、当該年度の年会費を、通知された時期に納入するものとする。

- 2 会費の額は、総会の議決をもってこれを定める。
- 3 納入した会費は、これを返還しない。

(会員の権利)

第7条 会員は、次の権利を有する。

- (1) 総会への出席
- (2) 本会機関誌及び連絡・通信物の受領
- (3) 本会主催事業への参加

(正会員の権利)

第8条 正会員は次の権利を有する。

- (1) 総会における議決
- (2) 本会機関誌等への投稿
- (3) 本会研究集会における研究発表

第4章 役員及び事務局

(役員)

第9条 本会に、次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 委員 20名以内
- (4) 監事 2名

(役員の仕事)

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、会長の責務を代行する。
- 3 委員は、会務を執行する。
- 4 監事は、会計を監査する。

(役員を選出・任期)

第11条 役員は、総会で選出される。

- 2 役員の任期は、1期2年とし、再任は妨げない。但し、同じ役職では3期6年を上限とする。
- 3 任期途中で役員に欠員ができ、会務の執行等に支障を生ずるおそれがあるときは、これを補充することができる。補充役員の任期は、当該役員の残任期間とする。

(事務局)

第12条 本会に事務局を置く。

- 2 事務局に専任の職員を置くことができる。

第5章 会議

(会議の種類)

第13条 会議は、総会及び委員会とする。

(総会)

第14条 総会は、本会最高の決定機関であつて、この会則において別に規定するもののほか、次の事項を議決する。

- (1) 事業計画及び収支予算に関する事項
- (2) 事業報告及び決算の承認に関する事項
- (3) 委員会において総会に付議する必要があると認めた事項
- (4) 総会出席正会員から提案され、議案として認められた事項

2 総会は、年1回会長が招集して春季に開催する。この他、正会員の5分の1以上から書面で総会に付議すべき事項を示して総会開催請求があつたとき、又は会長が必要と認めたとき、会長は臨時にこれを招集する。

3 総会は、正会員の10分の1以上の出席をもって成立する。

4 総会の議決は、出席正会員の過半数の同意による。

5 総会の議長は、出席正会員のうちから選出する。

6 総会の会議録は、議長が署名し、速やかに公開する。

(委員会)

第15条 委員会は、会務の執行に関する事項を審議決定する。

- 2 委員会は、会長が副会長及び委員を招集して開催する。

第6章 会計

(会計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入及びその他の収入による。

2 本会の会計年度は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

3 収支決算は、毎会計年度終了後、監事の監査を経て、総会に報告しなければならない。

第7章 記録の管理、公開及び保存

(記録の管理)

第17条 会務の執行等にあたっては、適切な記録の管理を行わなければならない。

(記録の公開)

第18条 本会の記録は、原則として公開しなければならない。

(アーカイブズの保存及び公開)

第19条 本会の記録のうち、永続的保存価値を有すると認められるものは、アーカイブズとして保存し公開しなければならない。

第8章 会則の変更及び本会の解散

(会則の変更)

第20条 本会会則の変更は、総会の議決を得なければならない。

(本会の解散)

第21条 本会の解散は、総会において正会員の3分の2以上の同意を得なければならない。

第9章 関連諸規程

(関連諸規程)

第22条 会務執行等に必要な諸規程は、別に定める。

附 則

(施行期日)

この会則は、2004年4月24日から施行する。

(施行期日)

この会則は、2008年4月19日から施行する。

事務局

事務局は、下記のところに置く。

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
学習院大学文学部高埜研究室

日本アーカイブズ学会会費規程

1 本会の会費年額は次のとおりとする。

正会員 5,000円 (学生 3,000円)

賛助会員 一口10,000円

2 本規程は2004年4月24日から施行する。

参考資料

総会運営規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第14条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、総会の運営に関し必要な事項を定める。

(司会者)

第2条 司会者は、会長が指名し議長決定までの責任を持つ。

2 司会者は、仮議長となって議長を選出する。

(議長)

第3条 議長は1名ないし2名とする。

2 議長は、総会の秩序を保持し議事を整理して会議の運営と進行に責任を持つ。

3 議長は、会則第14条第3項により定足数を確認の後、総会の成立を宣言する。ただし、出席者が定足数に満たないときは、休息又は散会あるいは延会を宣言する。

(書記)

第4条 議長は、議事を記録するため出席正会員のなかから書記2名を指名する。

(発言者)

第5条 会議で発言する場合は挙手し、議長の指名を受けなければならない。

2 議長より指名を受けたときは、発言に先立ち、氏名を明らかにしなければならない。

(議案の提出)

第6条 会則第14条第1項第4号により提案をする場合は、次の各号による。

(1) 提案要旨を総会の30日前までに会長に提出しなければならない。

(2) 前号に定める期限以降に、緊急の事情により提案の必要が生じた場合は、総会開始までにその事由と要旨を会長に申し出なければならない。

(採決)

第7条 議長は、採決を行うときは、その旨を宣言する。

2 採決は、次の方法の一つとし、議長はその方法を会議に諮って採決する。

(1) 拍手

(2) 挙手

(3) 無記名投票

3 採決の順序は、原則として議案に対する否決、修正、賛成の順序で行う。

4 採決を行った場合は、議長はその結果を宣言する。

(発言停止、退場)

第8条 議長は、この規程に違反し、注意に従わない者を発言の停止あるいは退場させることができる。

(議事録)

第9条 総会の議事録には、次の各号に掲げられた事項が記載されなければならない。

(1) 開催日時及び開催場所

- (2) 出席正会員数
- (3) 議長選任の経緯
- (4) 開会宣言
- (5) 報告事項の概要
- (6) 審議事項の概要およびその審議結果
- (7) 閉会宣言
(規程の変更)

第10条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、総会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規程は、2005年4月5日開催の第12回委員会の議決により暫定的に施行する。
- 2 この規程は、2005年4月23日から施行する。

参考資料

役員選出規程

(目的)

第1条 この規程は、日本アーカイブズ学会会則第11条に定める事項のほか、同第22条の規定にもとづき、役員選出の方法に関し必要な事項を定める。

(立候補)

第2条 役員に立候補しようとする者は、委員会による役員改選又は補充の告示にしたがい、立候補する役職名とともに、その旨を委員会に届け出るものとする。

2 届出には正会員3名以上の推薦を要する。

(役員候補の決定)

第3条 委員会は、次の方法により役員案を総会に提案する。

(1) 立候補者は全員を総会に提案する。

(2) 立候補者数が前条第1項により告示された定数に満たない場合には、必要に応じて、委員会が本人の同意を得て選出し総会に提案する。

(総会による選出)

第4条 総会では次の方法により役員を選出する。

(1) 候補者数が第2条第1項により告示された定数と同数の役職は、総会運営規程第7条の規定に基づき選出する。

(2) 候補者数が第2条第1項により告示された定数を越える場合には、投票により選出する。

(投票)

第5条 投票は、第2条第1項により告示された定数に応じて、無記名連記方式で行う。

2 投票用紙は会場で有権者に配布された所定のものを用いる。

3 当選者は、役職ごとに得票数の多い者から当該定数を選出する。ただし、得票数が等しい場合は抽選によって順位を定め選出する。

(規程の変更)

第6条 この規程は、総会の承認を受けなければ変更することができない。

附 則

(施行期日)

この規程は、2005年4月23日から施行する。